



2020 RACE REPORT

#52 埼玉トヨペット GB GR スーブラ GT

2020年10月24日(土)~25日(日)

AUTOBACS SUPER GT Round 6

FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 300km RACE

鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

まさかの 24 周リタイア。ノーポイントに終わる

予選日の天候は晴。今回、GR スーブラ GT には 99kg のウェイトハンディと 25kg の性能調整 (BoP) ウェイト、合計 124kg の重りが搭載されている。マシンの走行性能に与える影響は大きくなるが、1 点でも多くポイントを獲得し、ランキング上位チームとの差を縮めたいところ。土曜日の天候は晴。やや風があり、パドックは肌寒い。9 時 20 分から行われた公式練習では吉田、川合の順にドライブ。マシンの各部を調整しながら、予選で使用するタイヤの選択を行った。ベストタイムは最後のアタックで川合選手がマークした 1 分 58 秒 221 (8 位) で、上位進出が期待できるポジション。GT300 の予選 (Q1) は A、B2 つの組に分かれて行われ、GR スーブラ GT は B 組に出場。川合選手は予選開始の合図とともにコースに入り、2 周目からアタックを行うも、コントロールラインを通過した直後に赤旗が提示される。5 分後に予選は再開され、川合選手はセクター2 を全体ベストで通過。1 分 57 秒 290 をマークし、B 組 3 位で Q1 を突破した。GT500 の赤旗により、20 分遅れで行われた Q2。吉田選手は Q1 と異なる種類のタイヤを装着。最初のアタックで 1 分 57 秒 220 をマークし、2 位につける。吉田選手はタイムアップするべく続けてアタックを行うも、タイムを更新できず。ライバルが吉田選手のタイムを上回ったため、順位は 10 位となった。

決勝日の天候は晴。抽選により Q2 のタイヤでスタートすることになったため、吉田選手がスタートドライバーを担当する。吉田選手はスタートダッシュを決めた #56GT-R に抜かれ、11 位で 1 コーナーへ。後続から激しいプレッシャーを受けており、吉田選手は 13 位で 1 周目を終える。4 周目に上位のマシンがストップしたため 12 位に浮上。位置取り争いが落ち着いた後の吉田選手のペースはライバルより速く、7 周目に #4 メルセデス AMG をパス。集団による混戦になってもペースは衰えず、14 周目に 8 位まで順位を上げる。全体の 3 分の 1 を過ぎた 18 周あたりからライバルがピットに入るようになり、吉田選手も 19 周目の終わりにピットイン。川合選手に交代し、タイヤ交換と給油を行ってピットアウトする。課題のひとつであったピット作業だが、近藤チーフエンジニアが「完璧」と発したほど、店舗メカニックの動きに無駄がない。川合選手は猛然とピットアウトするが、好事魔多し。コースに復帰した直後の S 字コーナーで挙動を乱し、GT500 車両と接触。コースを飛び出し、スポンジバリアに当たってストップしてしまう。このアクシデントにより、セーフティカーが導入されるが、川合選手は自力で再スタートできたため、隊列に加わり周回を続ける。25 周目からレース再開となり、川合選手はピットイン。店舗メカニックがダメージを負ったリアウイングの修復を試みるが、短時間での修復は困難のため、チームはリタイアを選択。正式結果は 24 周リタイアとなった。

決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR スーブラ GT

(吉田広樹/川合孝汰)

決勝: リタイア (24 周)

予選: 10 位 (Q2: 1 分 57 秒 220)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1 位	Hitotsuyama Audi R8 LMS(アウディ R8 RMS)	49
2 位	ADVICS muta MC86(トヨタ 86 MC)	49
3 位	グッドスマイル初音ミク AMG(メルセデス AMG GT3)	49
4 位	マッハ車検 GTNET MC86 マッハ号(トヨタ 86 MC)	49
5 位	K-tunes RC F GT3(レクサス RC F GT3)	49
6 位	T-DASH ランボルギーニ GT3(ランボルギーニ ウラカン GT3)	49
	リタイア: 埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR スーブラ GT)	24
天候: 晴、路面: ドライ ※トップ 6 まで(出走 29 台)		



DRIVERS VOICE



第1ドライバー吉田広樹

(予選後) フリー走行とは違うコンディション、路面温度になってしまいました。自分たちが選んだタイヤが難しい状況になってしまい、しょうがないですね。アタックでミスをしたわけではなく、どういうタイヤを使って、どういうタイヤを残すかを失敗してしまいました。どれくらい路温が上がるか、もっと深く考えなければいけなかったのかなと思います。しっかり流れを読んで、タイミングだったり、どういうタイヤに変えるかとかを考えていけたらと思います。

(決勝後) チャンピオンを争う上では、悪くないところを走っていたし、絶対落とせないレースでした。(コースアウト)が一番やってはいけないことですが、孝汰を攻めているわけではなく、自分もやる可能性がありました。ただ、こういう結果になったのはメカに対してもチームに対しても申し訳ないと思っています。



第2ドライバー川合孝汰

(予選後) 新品タイヤだったのですが、路面とクルマの全体的なバランスも良くなり、グリップ力もあったので、もうちょっといけるかなという感じで1回目を走っていました。手元のモニター上にタイムが出ていなかったの、何秒かなと思っていたのですが、無線で教えてもらい、ちょっとほっとしました。重たい分、最初のフリープラクティスの時に、ABSが入るのが早く、重さの分が効いているのかなと思いますが、一発のアタックだけに関してはそこまで影響はないのかなと思います。いい意味で自分にも追い風だったので、とりあえずQ1を無事通せて良かったと思います。

(決勝後) アウトラップでS字コーナーに入ったのですが、まだタイヤが温まっていなくて、はらんだところにGT500が来て、よけきれずに当たってしまいました。大変申し訳ございませんでした。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	65	K2 R&D LEON RACING	68
2位	11	GAINER	58
3位	56	KONDO RACING	54
4位	55	ARTA	54
5位	61	R&D SPORT	49
6位	2	Cars Tokai Dream28	48
7位	52	埼玉トヨペット Green Brave	48

トップ7まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社 Team Iwakiri Japan



株式会社ハッピーライフ彩生



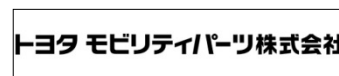
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社ドーム



埼玉スリーボンド株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社

※50 音順

【次戦予告】 11月7日～8日 ツインリンクもてぎ（栃木県茂木町）

©2020 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.